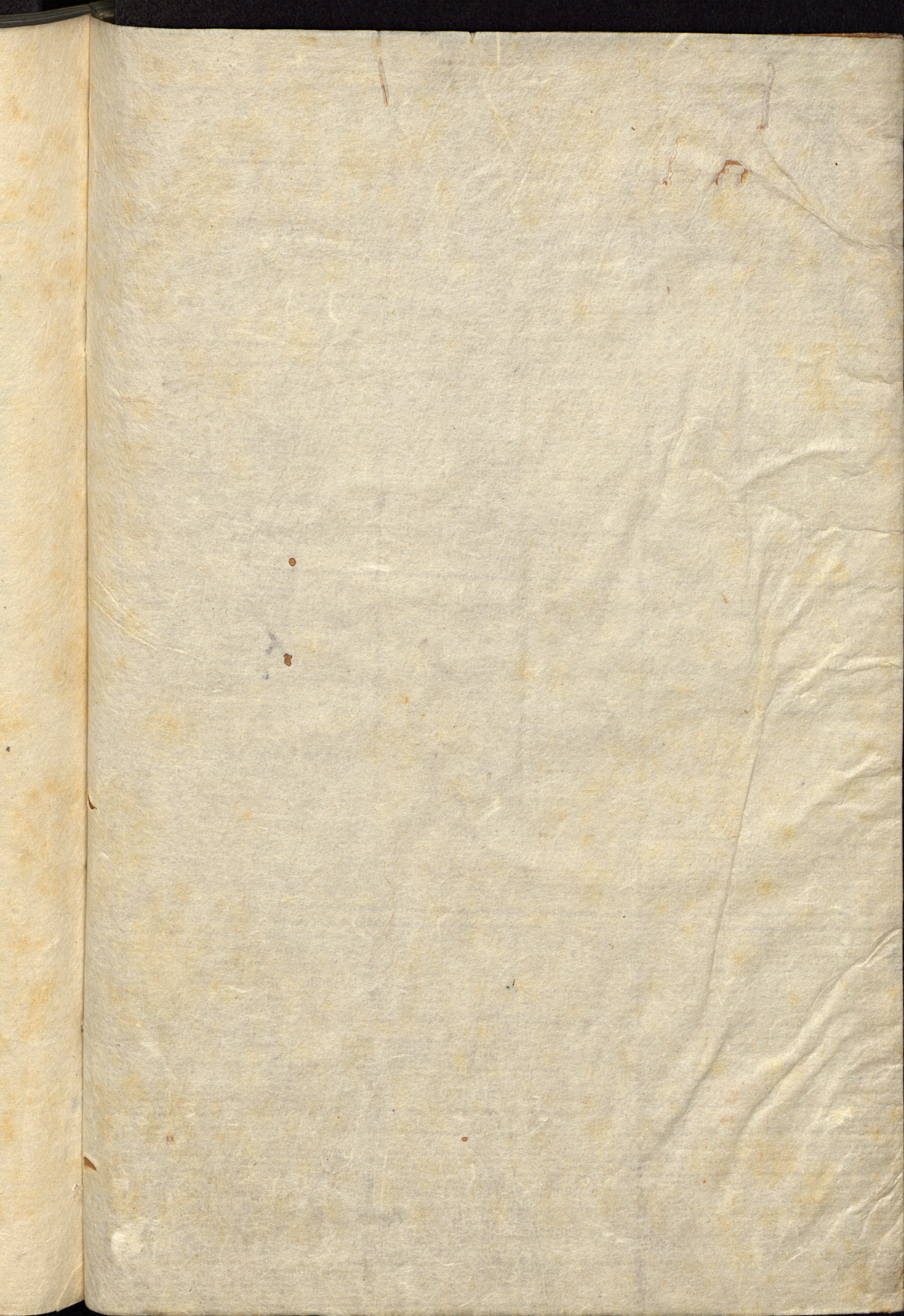


鞭 同 同 既 騎
寸 所 馬
法 付 立

中 順

AF
JAP
304
(16) 免





龍之卷

十



すう——をけり葉の諸式葉文の
組緒号二斗斗りて付るなり脱失
る諸と云

一 大將武の第六と云々七と置と表
よりゆきと取柄のあて計数と云
二寸也諸言の第六と云八
寸と表よりゆきと取柄のあてと云
九分と云二寸と云と云

九分先より一寸七厘あり

一 敬乃きこく守又く人守取柄也

一 守或は短く守又く守は

一 守乃てある膝頭は較ゆる本守

横も重なり切しと守横は

是と人横は

裏しと人横は

一尺二寸の竹を切て又た房を此際
より先の間より一尺二寸を切てつて是
等、已^ラに平^{ツカ}秤^{ハカリ}とて

一丈五寸の竹を切て又た房の下より中
指^{ササ}と較て六寸と一尺を切

一本の勝^{ハヤ}軍^{グン}木^{ホシ}かきとも切て其木を
又熊^{クマ}柳^{ヤナギ}と切て又竹の根を切て
竹も今^{イマ}に櫓^ユの木^キ梅^{ウメ}の木^キ用^{ヨウ}

終る今に櫻の木梅の木

重なり

一湯の歌とゆえに注の筆を先也

一筆とは常の錦州家又埋新証

或は懸て重なり

一草をよふと本歌の別後小記

ゆえより寸草うたれぬ

ゆえより風雲は度と寸草

いふなりと力招つて

いふなり

け間二寸五分斗部あり



横板

取柄守より柄乃内ふ不動の横字大(一)寸
と發くは内本先ふ一字木に振て圓く

雛形も年先も長き五分

切目と内

先とちりて切

一欵の長さたわがきるてもなり也

一簾敷十二取但端は敷のみ也

一 義教十二所但病後教の所也

一 義乃廣さるる定敬ふは事え能く
可^{ツカ}敬ふ事え事なり

一 義乃事是事なり

一 義乃事是事なり

一 義乃事是事なり

一 義乃事是事なり

一 義乃事是事なり

一 義乃事是事なり

十二部と毒に及ぶ事

腕掛守

沈よりせん大指一伏

取柄守 摩利支天の梵字九字と云々

満腹の初

木六指と云々

日本書紀卷之四



長き何氏曰如廣さす事あり

長き何年にも廣さすあるはよし

一 是ハ軍陳の數之數の七市七曜と表
きり讀取らぬの外也

一 此本軍は五折いすも口前之曜と

一 表一之折と法は事とあり

一 數と折とと據る是事加持をて可

一 數と一と字令編の法取柄の據るは

加持す可也

一

結月日永

指押す

沈より先大指一伏

日永
指押す

取柄のまゝ守結束は何處の
毛草中へ又落武年と云ふ

一むこの敬もて友の押さくまあり

うわらふや

一 責馬乃時と世歌とつち長廿二寸
 不動の枕字廿一字書は然や
 一 うてうけら申一系とくけ合歌結ふ
 是く一あまうあを指掛り如く方
 一 とはみか斗と重なる如く如く
 一 舞先より風城廣さす歌ふいの目
 七さす歌ふとすふとるあり

草先指掛六寸



是と云ふ所の集と云ふはちなり

五穀之圖

五穀之圖

粟

黍

稷

粱

麥

稻

長三尺寸五分、穀小、一、南天平、作、社、集、用、





杜

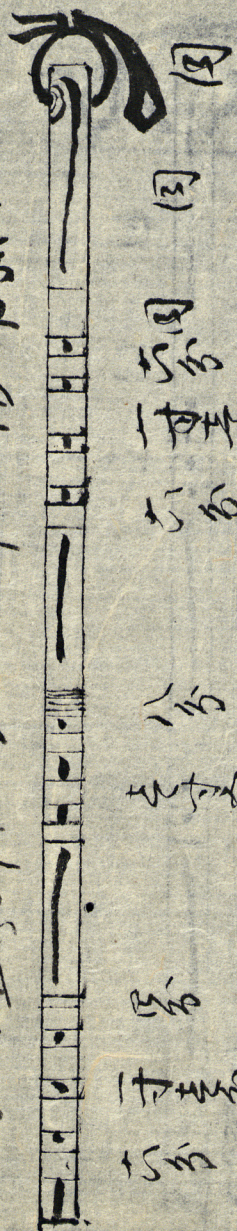


長二尺一寸八分是八尋紀之時用一

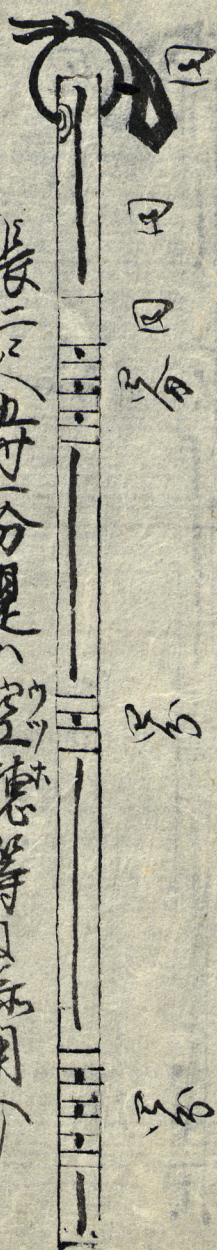


長一尺一寸五分是八厘糸異體等子用下

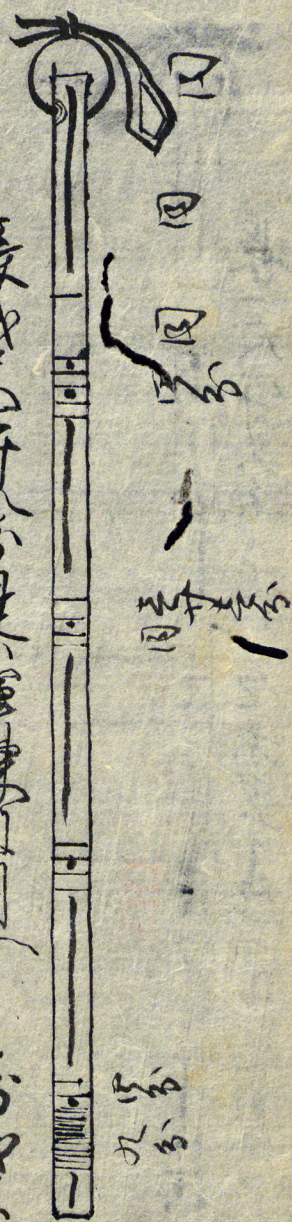
長五尺一寸二分是八事此馬錢宋第百一



長二尺一寸二分是八事此馬錢宋第百一



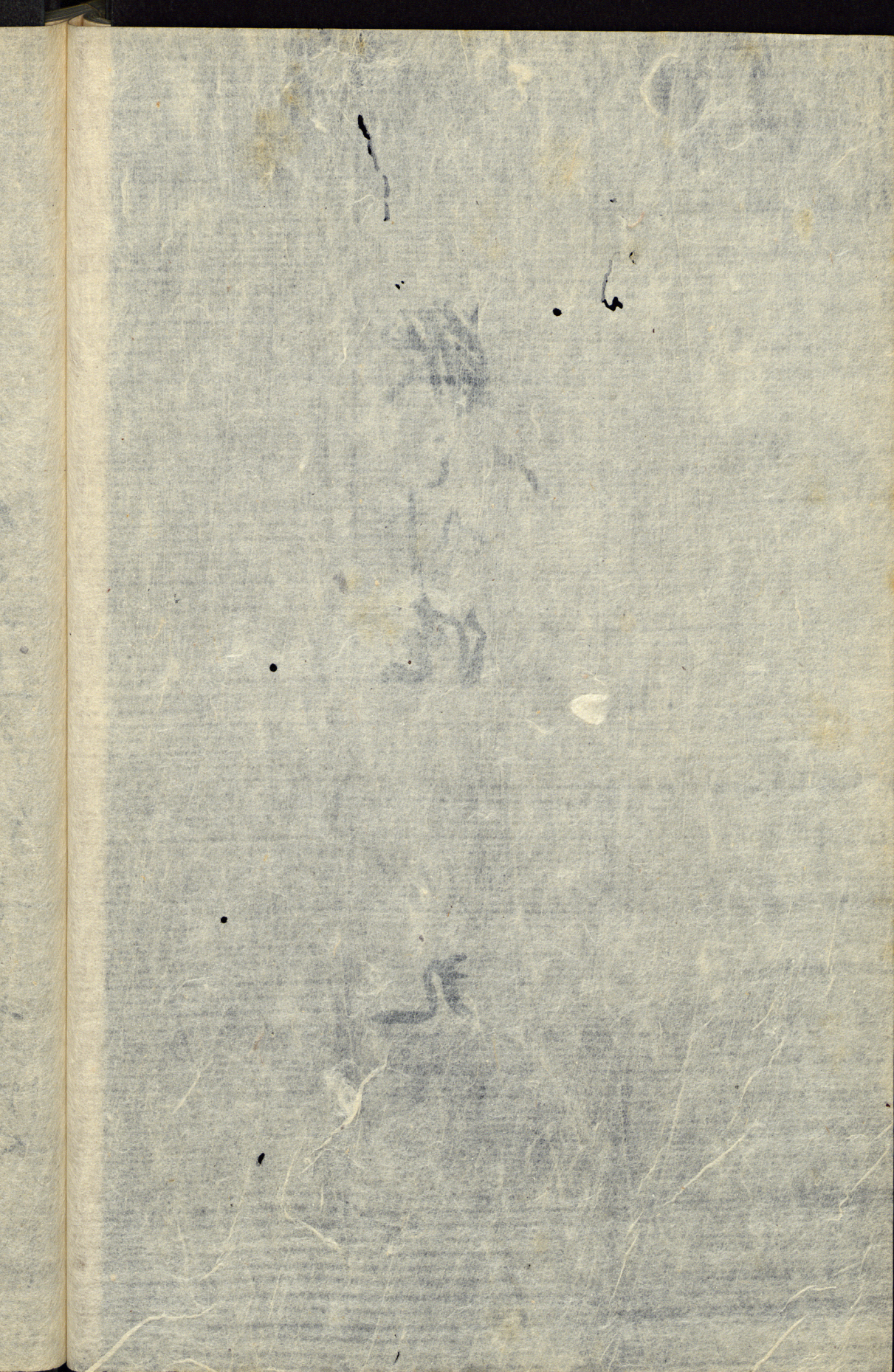
長七尺一寸二分是八事此馬錢宋第百一



敬寸

九

長尺一寸二分是公大事此是法家策有



教へず法事

長子より一丈八寸有半也
ふもて用半山の根を柳で
かきかへる人教と二戸寺教なり
切半の漢武帝ちちせん云ふて

将志といひ時武はとせし様武帝
の前より武帝が御とせしうを
と給時秋は山小^領事一旨余威
の統の命とたしけ給ひぬまは
きりふは^みみもこの命有る人
君は天聖文殊の化身天竺の
大馬より一日よりのよとける
るありかまは馬頭観音の宗と

るありき六馬類親音の宗は

あうくまじと云武帝矢付
猿と助も猿と時猿やう文と昌

地現きんま余は馬類宗馬

一天代宮ありきうとわ

則ち毛馬武帝のおよ首を
ゆけてある武帝らの法とて
法をせむ小律と云ふまより

法と考く、事總とて人守之、前漢

鞭と二戸七寸或る小切

大馬物の時に竹根の鞭として不用

但ちくハ云、擲うて、不用る也

又、柳の小葉、原ゆゑ、不用ハ

不用

と、其のま、守る、山、地、守、其、

小笠原博品記一巻八寸八分

とつ

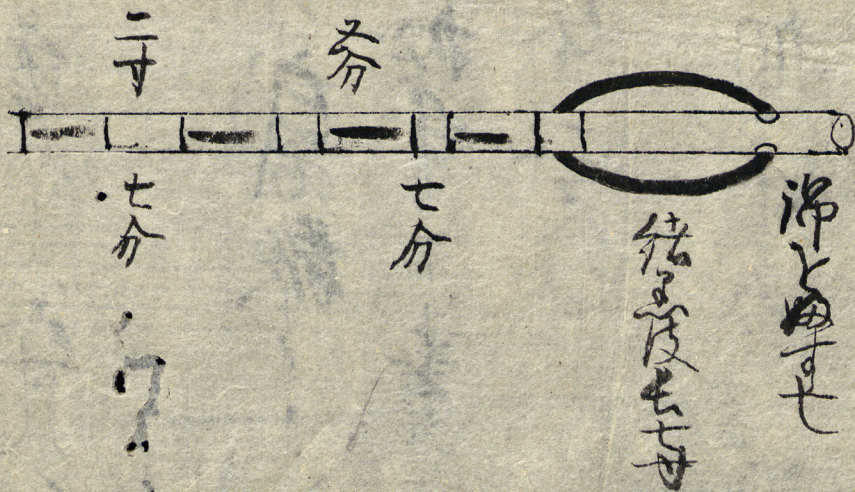
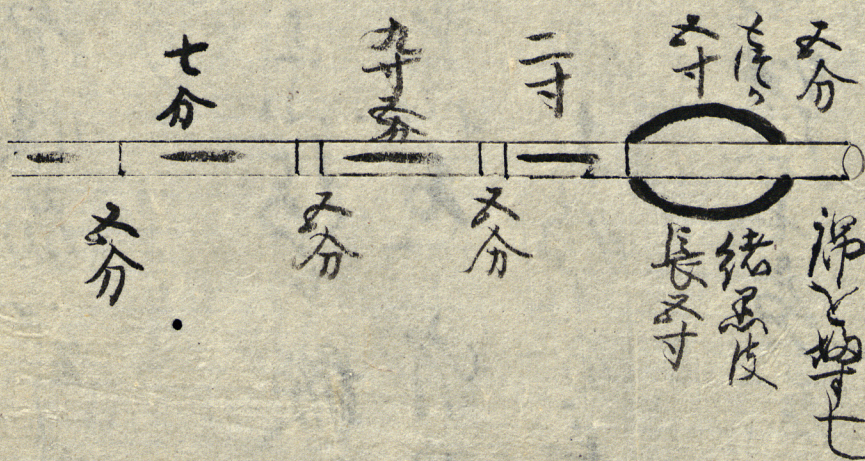
夫のよ小指と軟と武者軟

友のものを有松筆と事

小笠原おつ分長二尺八寸

娘前佐藤ち久宗相傳す法八寸

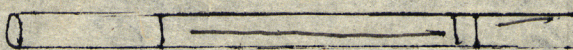
八分



紫竹のきねあて

寸

七分



綿とぬす

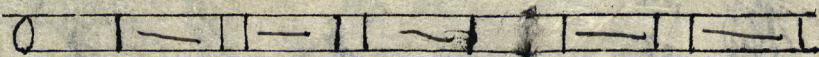
二寸

分

分

寸

分

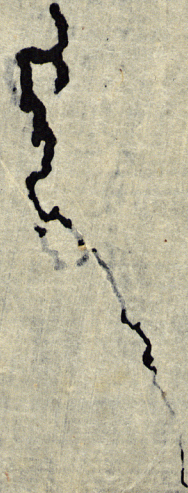


綿とぬす

二寸

七分

分



書

久しは白みさな成るをいふ
色ふ 青い成るをいふ又青を
能る人のたみさそ大逆物の掛
し月

おもひと成る
又そや形さふ

一

十文字さ成

橘をいふは云

さす

たちや

痛く足

々々足

引は又お針
いふ七すき書て
やうてお針も
長き七すきる七

ちどすり

何れおお



一々名事

後編

山歌

さうさあ高

おまゝ高

凡左高

ゆさ



力草宛高

凡左高
如銀高

此廣きやう
わきとらふ

くさ



五枚屋敷

日記

五とろりやうと海へ前後に
くさるゝ海へいふまゝに
あつたときたるもわづ
かしく海有市武

日記
すはぬが文
又いふやうに
後

一枕の巻

カユ又ケラクヒタ

紋

コシリ

タツカシラ



シヤキ

ヤナハ惣ノ
シヤキ

ナカラカ子
又ミトウ金丸

猿尾

ホロツク穴

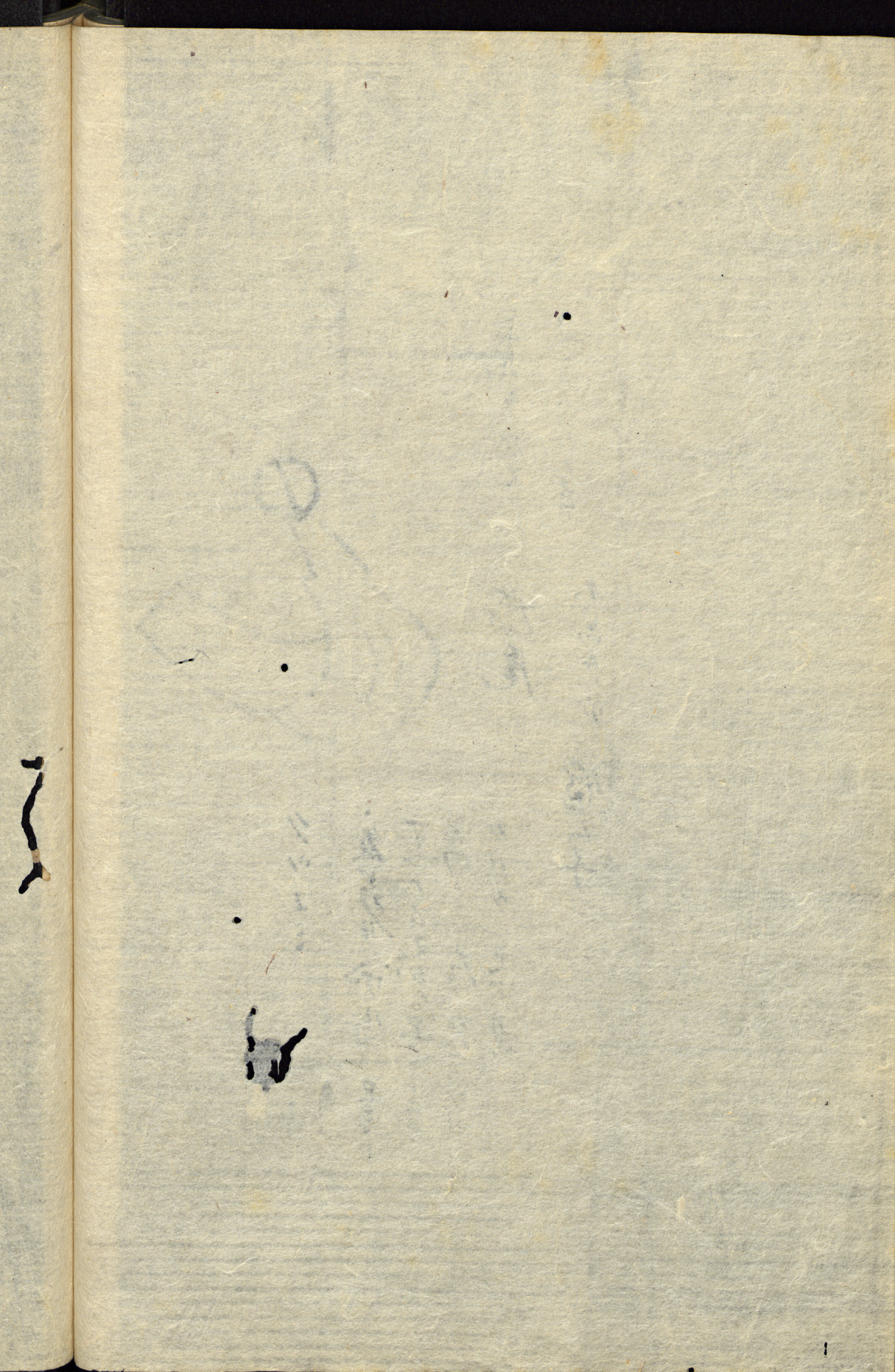
鳩子



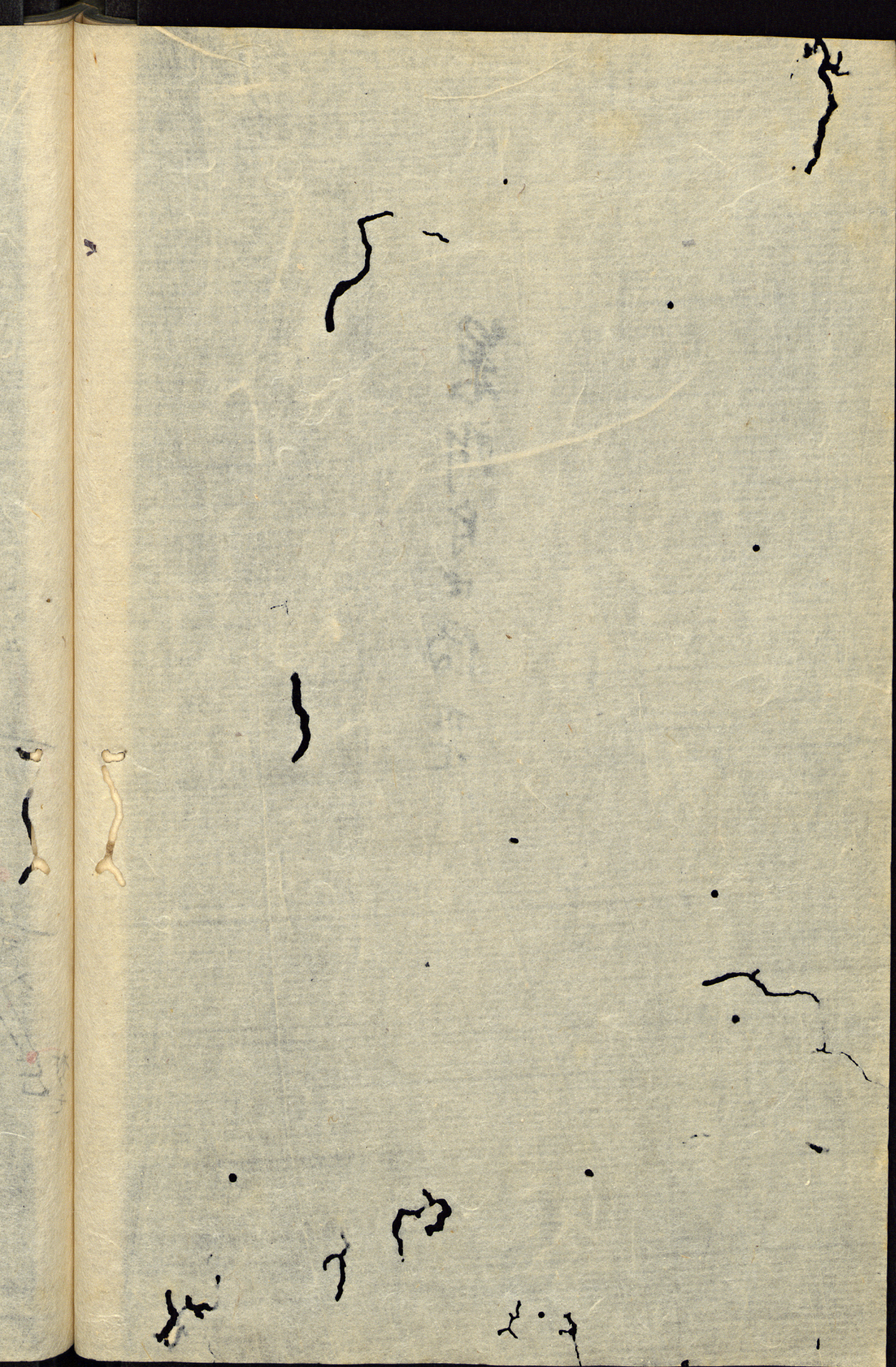
クツユミ

夜と名サルヲエミ
ナシト云ヌカタミミトア
アフミシノ左ノカタハカリ
クリタルモアリ

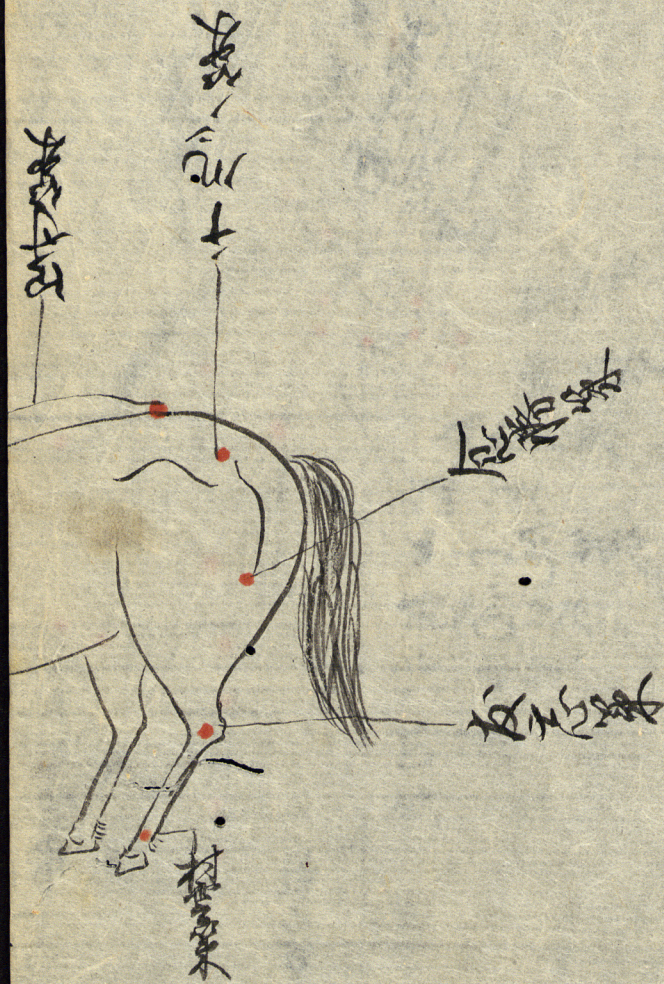


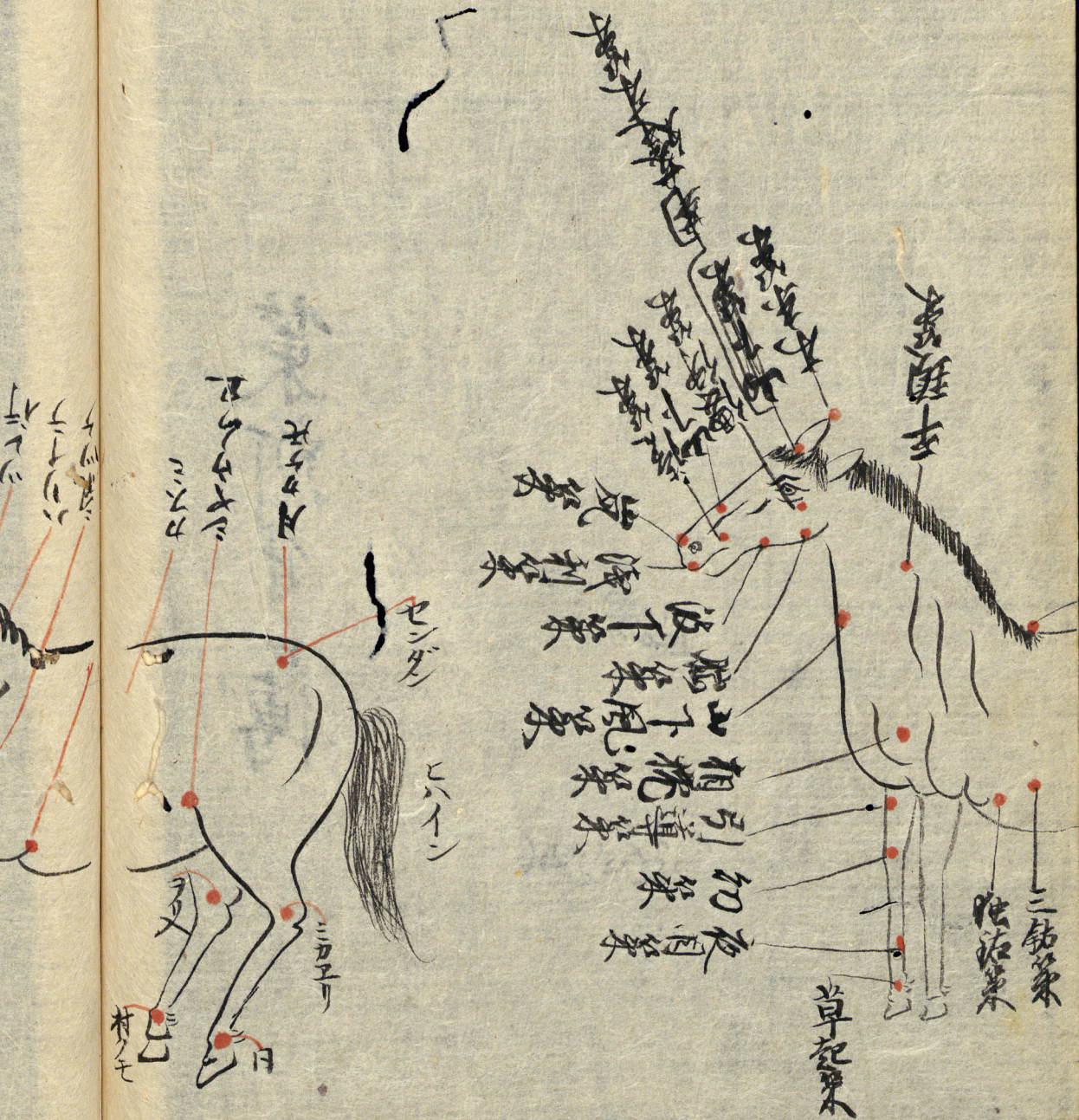


東新自口傳世



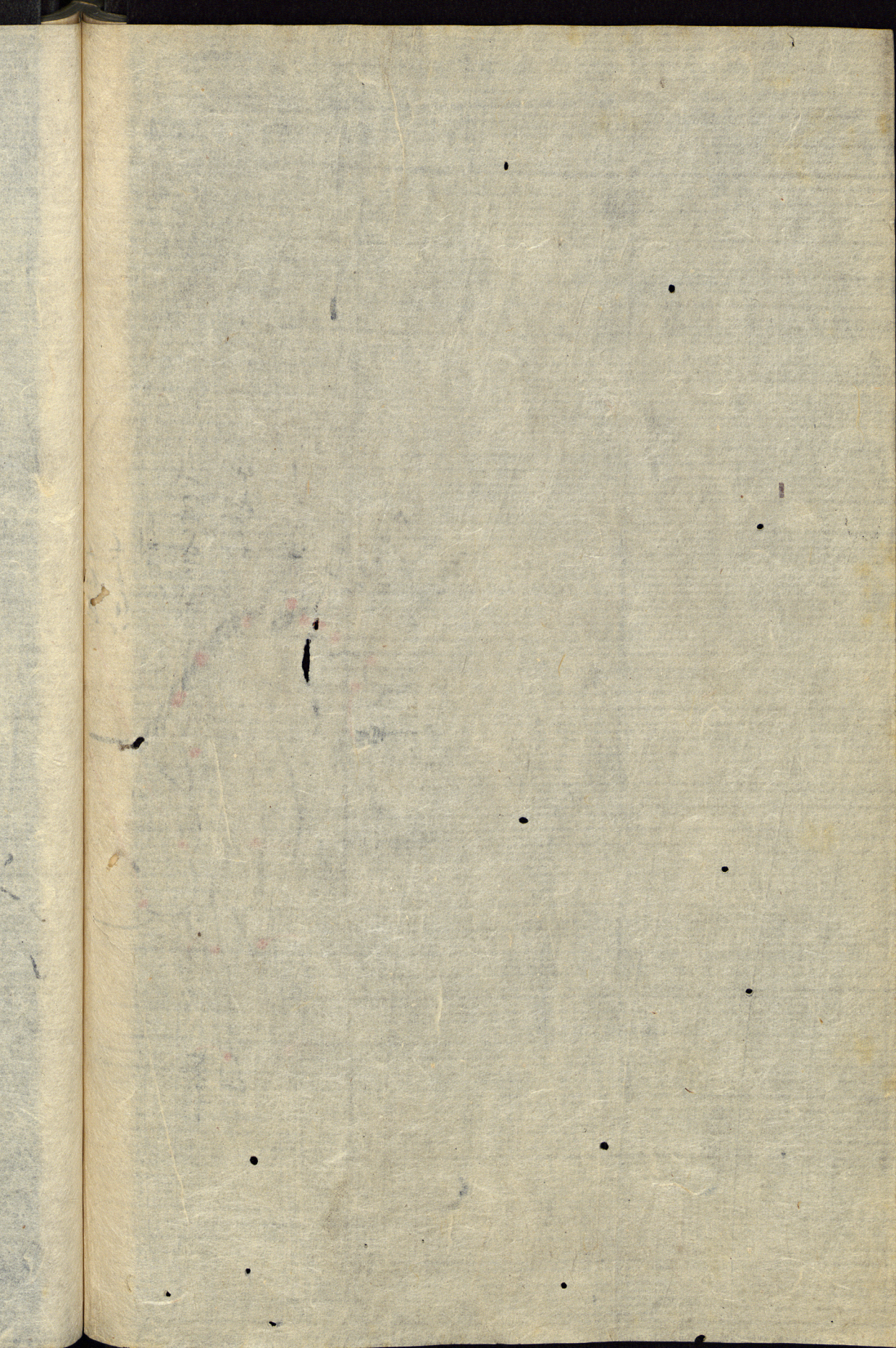
策所付傳





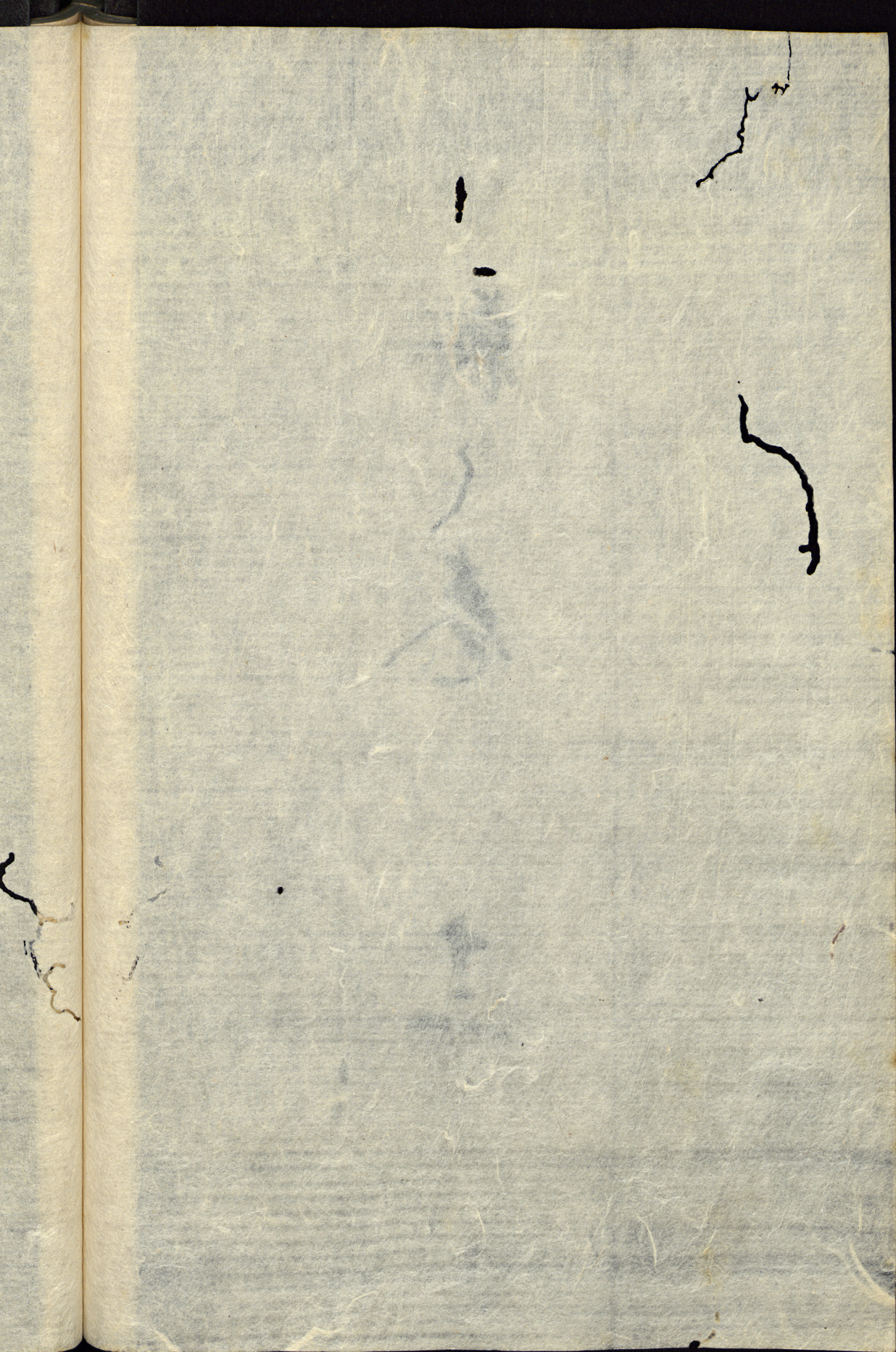


三ノ
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百



一
耕
卷

十一



鞍轡書之圖

一 鞍轡書之唐鞍轡書結鞍轡の
名なり又鞍轡馬鞍轡の骨鞍
之形なり其鞍轡書之甘如きり
又鞍轡書之唐鞍轡書之鞍轡
之形なり其鞍轡書之鞍轡

一脊二指之三

後輪大山歌

折背
居木間
雞股

凡先



小出歌
磯氏海
手歌
手組

前輪

鞍通
鞆付氏

洲濱歌
見鰐口

磯裏
馬膚

小鰐歌

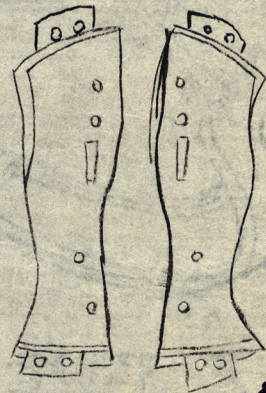
大鰐歌

一 脛の馬の鞍巻也 沈る頭運組と其の下
 と 役具と云ふ物小脛具と云ふ物
 是は故に沈頭の痛と役具頭云は
 稍タツカシラ民を以て倭建意之傳此ニルキカ子様次成

居木先

切組

切組



小鰐取

大鰐取

渦穴

搦穴

物付穴

切組

教踏金ヒタウカ子今通マ用マ

他ヒ一ヒ二ニ掛マ之マ

當家マ明珍ニ免シ名故松マ有マ

馬マ層マ方マ障泥マ摺マ鏤マ貝マ尾マ

一文字 舌

鞍踏金

菩薩金

有繫

力金

鞍貝頭

渡

母羅付マ穴マ

猿尾



踏端 受縁

肥満脛

波分 谷間

鳩胸 肥満

母羅付穴



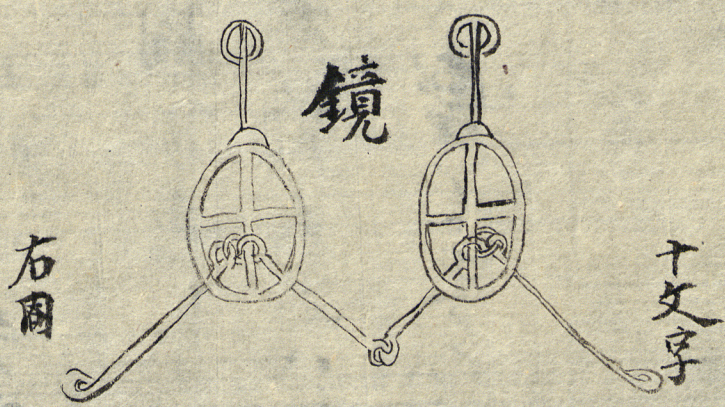
鳩胸 肥満

振尾

弓矢

一書衛と同書系ははし折は金お
頃御者駕馬小鞍と
一
驛馬小書と主と金より鐵鏡と
了衛の所決とあり又兼鞍と
馬鞍とある市俗とありつと
る書と一應二部とあり

立聞輪 總輪 霸付 總棚 鄉音 鐵頭 銷頭



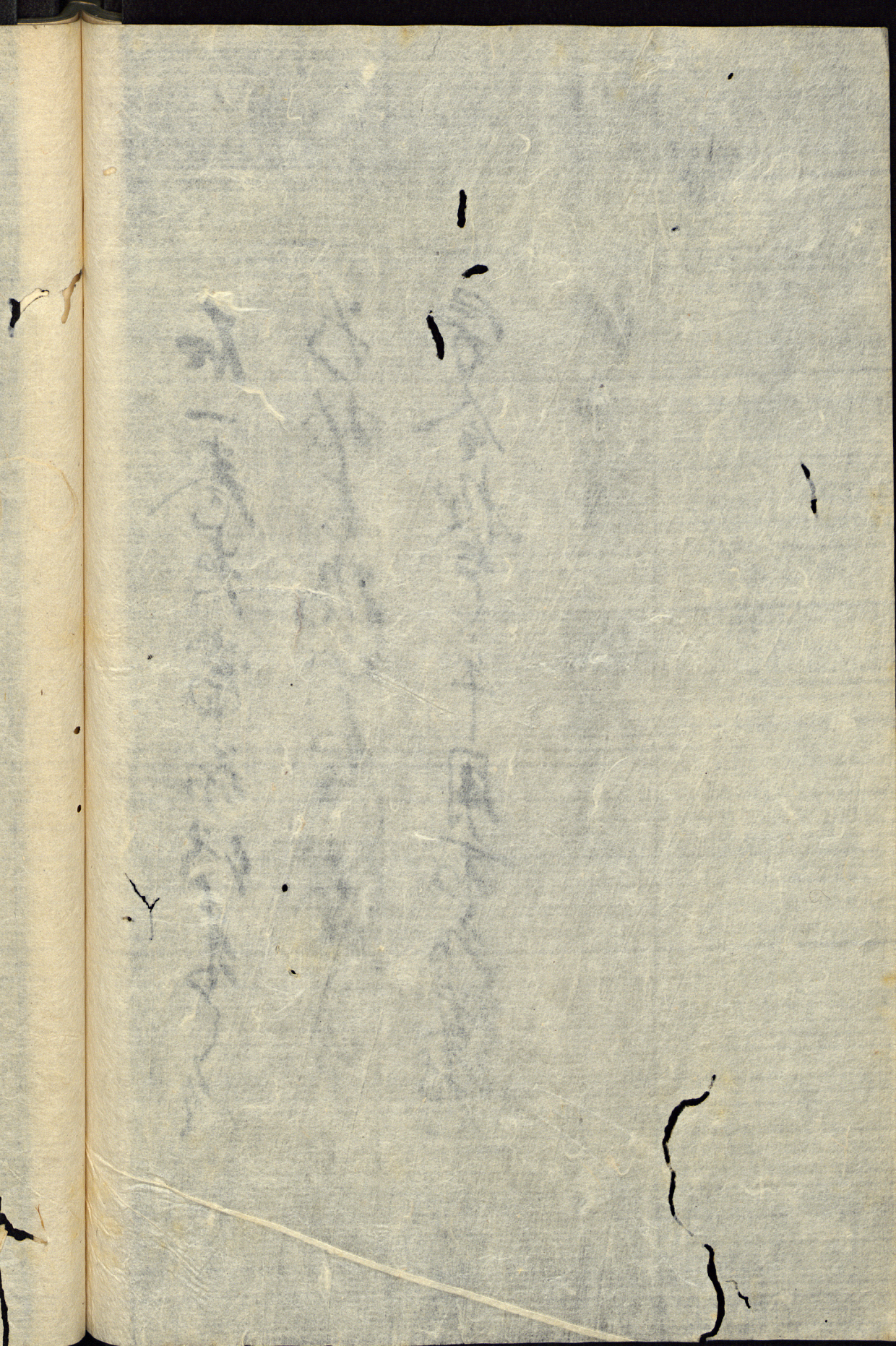
美鞍坪蛇口
引手
總付
鄉音
鐵頭
銷頭
右圓
右日
引手
總付
鄉音
鐵頭
銷頭
右圓
右日

右一卷夫當家作來

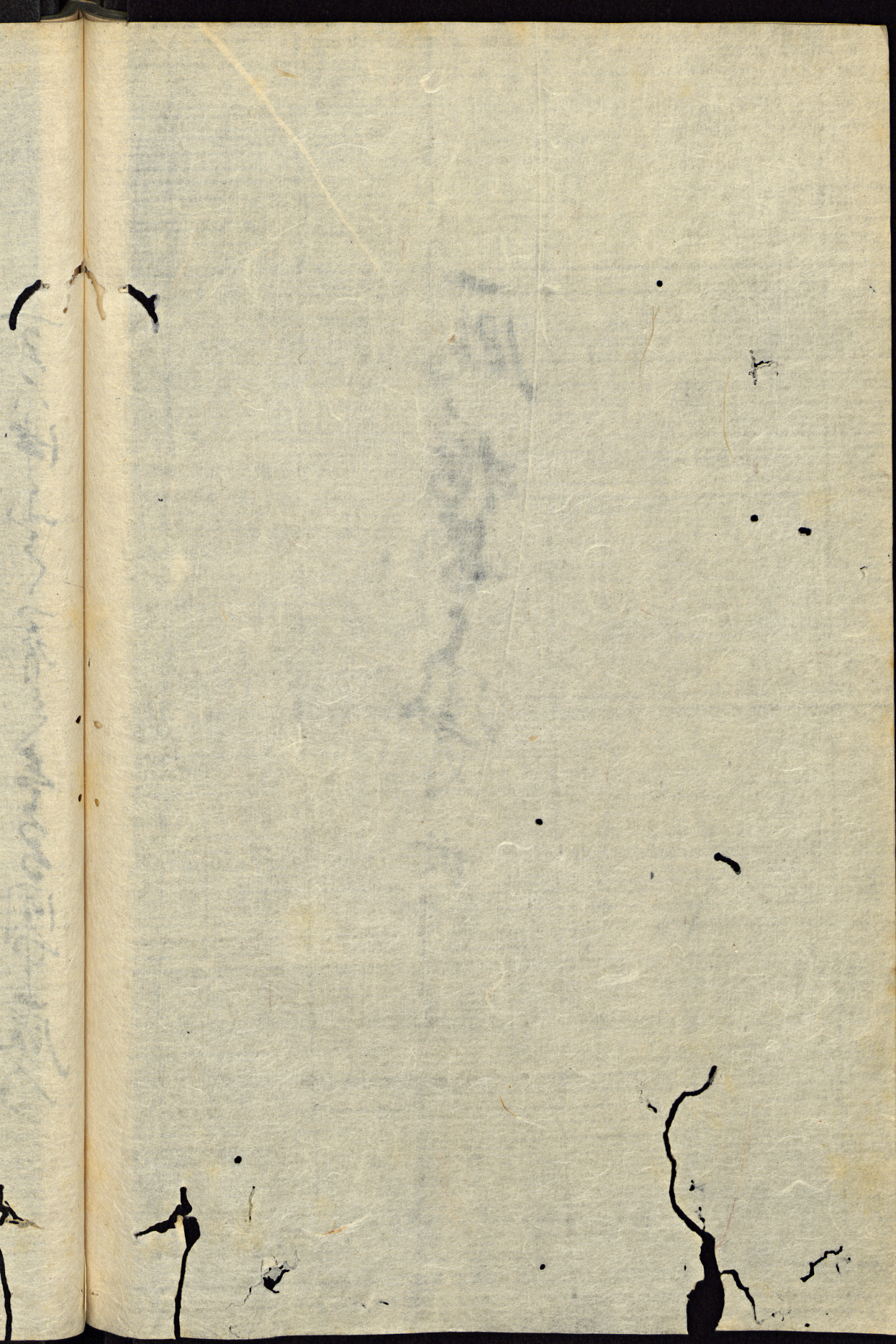
為秘書執心不淺依學

高令授令平用而外釋

他言有圓浦是



一
瓶
梅
香
牙
世
也



鹿指馬決

一鹿乃半長サ整同廣サ同なる半、
網が肘々十二回と鹿の網沙一回と
ゆき小刻由一廣サハ三回半と鹿
部より侍取より刻由一板別鹿の廣
大群より半長拾二回肘々十回鹿
沙部よりハ半刻由一馬とつかう

物之十二回時なるは厥部同
車ゆきと云ふ九回時なる
厥部同をゆきと云ふの時なる厥部
は其を十二回時十二回厥部を
之回の時なると云ふ

一侍乃上候より大相違ふなる
中候より上候より下候より上候
一厥乃厥より十二回なる下候
言ふ中より言ふ言ふ回中厥

内よりなるなる

言はれし中より一冊をとりて見れば

内書ありしなり

一冊をとりて見れば中にも四枚

ありし中の一冊をとりて見れば

中にも一冊をとりて見れば

中にも一冊をとりて見れば

可用

一冊をとりて見れば中にも四枚

ありし中の一冊をとりて見れば

中にも一冊をとりて見れば

ふみふみ。毛いふふ。て馬揃。此
極。馬。の。毛。を。け。て。け。り。す。サ
ア。に。下。り。ふ。

一馬。五。匹。と。り。ま。に。取。付。い。馬。の。廣。サ
六。尺。五。寸。の。長。さ。の。馬。を。五。匹。
ふ。り。一。馬。を。五。匹。の。長。さ。に。五。匹。の。馬。
に。五。匹。の。長。さ。に。五。匹。の。馬。を。五。
り。五。匹。

一。馬。の。五。匹。の。長。さ。に。五。匹。の。馬。を。五。

五。匹。の。長。さ。に。五。匹。の。馬。を。五。

てあめくふむふふふふふふ
あきとむ板と又馬のつらふ
軍八寸金板とあきとあき
人ふふふふふふふ

一とらふのふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

一とらふのふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

八寸金板とあきとあき
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ

おれ様を二戸守小立一物をさる

八寸角の桐箱一是と云の板取
の板と云ふものか人事秘蔵の最
眼尾の板の活版屋は是ふ大を
と云ふ重なるなり

一特小物と云ふ付灯とすや
七寸一尺二寸廣さ八寸厚ささす或の
板と云ふ洗米板も柳葉と油の
板の板を原よりさるなり
ふかすは通

一 衣懸乃とゆゑとのを黄といふ

ふとら弟ゆゑにといふ

一 衣板といふ鳥板といふ

一 既侍の下衣板といふ衣板といふ大秘

事

一 衣がのをいふといふ

納めはもその時をいふをいふ

うあかといふをいふをいふ

乃作

一 式に既には衣をいふ

一武蔵殿は奔りて度々ふる
まれの殿屋も奔りて下
二殿の者を居りて内庭をみて大程
の事なるを

一清ひしきを病みし者中程の
協ふ柄の方を以てありて重なる
一あけ杖といふものむしうなして横
一この殿七圓の時にては殿の

あの中とて致奥とてそれより
奥とて深きふくむは奥の奥
の時奥とてそれより次とて
奥とてその奥の中より見えし時と

奥とてそれより

一馬をえあするは奥の奥とてそれより
奥あり馬の奥とてそれより奥の奥
への奥ありとてそれより奥の奥とて
奥の奥とて奥の奥とて奥の奥とて

奥の奥とて奥の奥とて奥の奥とて

清室とて我輩とて存する

ありて立ちて主奥のまゝとて

事とて又時法くもたのまゝとて

重宝とて形とて徳作の人とて礼

とて馬とて徳不磨の心とて

乞のありて一と時脱侍の松とて

あはれ兼用とて場を清見とて

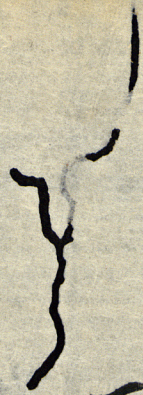
流とて一と時我の別とて

一馬屋とて見物の時諸侍を

中回集板とて通とて一と時諸侍

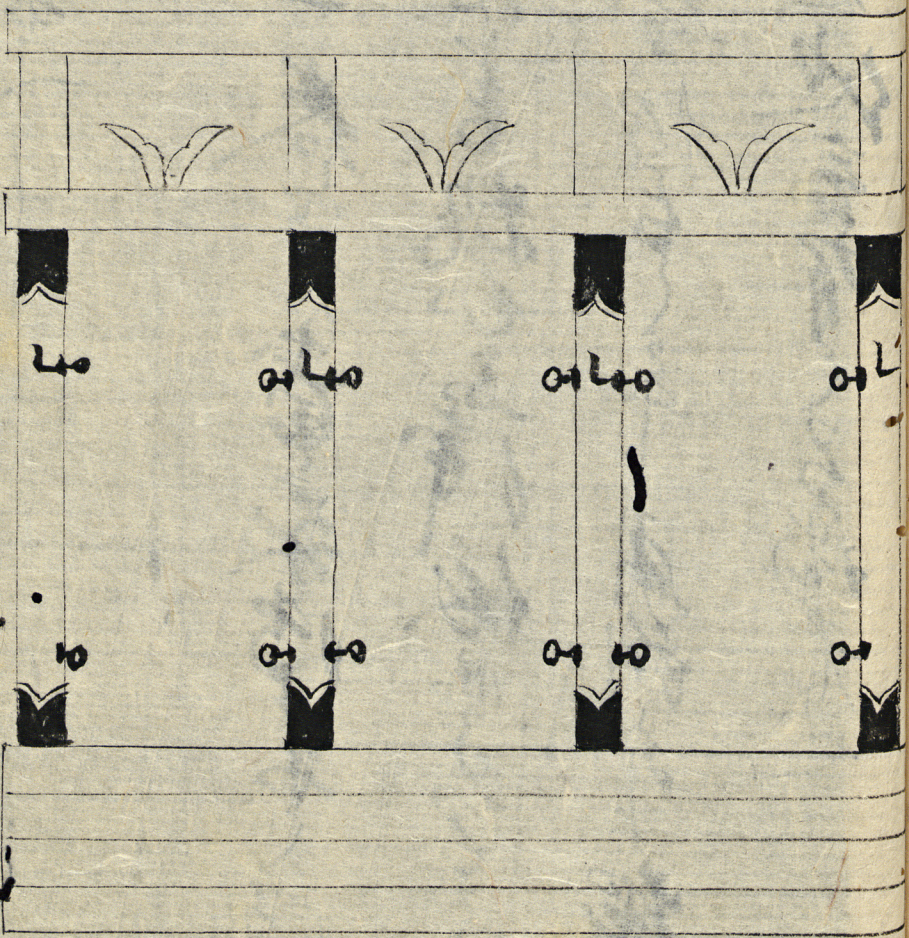
中回集板とて通とて一と時諸侍

中々侍有侍侍
中国は中々出ねと東国すし一版
はよりととす板とぬて何の詞
とく板とぬて今中国東詞
かく板とぬてあてすると侍
く板とぬて又中国東板とぬ
まの是秘書や
一版より馬とハ云ふとつり
をたらぬ



圖

廐



此乃、
木之
用也、
又

き
ら
ぬ
は

厥後不遠而歸
數說不馬具石
殘畫

右一卷者當家傳本

為秘書親心清依學子

方今授占平用新外振

此見他書有之為瑞者也

濟了立書

續他書

12-10-15-16-17-18-19-20-21-22-23-24-25-26-27-28-29-30-31-32-33-34-35-36-37-38-39-40-41-42-43-44-45-46-47-48-49-50-51-52-53-54-55-56-57-58-59-60-61-62-63-64-65-66-67-68-69-70-71-72-73-74-75-76-77-78-79-80-81-82-83-84-85-86-87-88-89-90-91-92-93-94-95-96-97-98-99-100-101-102-103-104-105-106-107-108-109-110-111-112-113-114-115-116-117-118-119-120-121-122-123-124-125-126-127-128-129-130-131-132-133-134-135-136-137-138-139-140-141-142-143-144-145-146-147-148-149-150-151-152-153-154-155-156-157-158-159-160-161-162-163-164-165-166-167-168-169-170-171-172-173-174-175-176-177-178-179-180-181-182-183-184-185-186-187-188-189-190-191-192-193-194-195-196-197-198-199-200-201-202-203-204-205-206-207-208-209-210-211-212-213-214-215-216-217-218-219-220-221-222-223-224-225-226-227-228-229-230-231-232-233-234-235-236-237-238-239-240-241-242-243-244-245-246-247-248-249-250-251-252-253-254-255-256-257-258-259-260-261-262-263-264-265-266-267-268-269-270-271-272-273-274-275-276-277-278-279-280-281-282-283-284-285-286-287-288-289-290-291-292-293-294-295-296-297-298-299-300-301-302-303-304-305-306-307-308-309-310-311-312-313-314-315-316-317-318-319-320-321-322-323-324-325-326-327-328-329-330-331-332-333-334-335-336-337-338-339-340-341-342-343-344-345-346-347-348-349-350-351-352-353-354-355-356-357-358-359-360-361-362-363-364-365-366-367-368-369-370-371-372-373-374-375-376-377-378-379-380-381-382-383-384-385-386-387-388-389-390-391-392-393-394-395-396-397-398-399-400-401-402-403-404-405-406-407-408-409-410-411-412-413-414-415-416-417-418-419-420-421-422-423-424-425-426-427-428-429-430-431-432-433-434-435-436-437-438-439-440-441-442-443-444-445-446-447-448-449-450-451-452-453-454-455-456-457-458-459-460-461-462-463-464-465-466-467-468-469-470-471-472-473-474-475-476-477-478-479-480-481-482-483-484-485-486-487-488-489-490-491-492-493-494-495-496-497-498-499-500-501-502-503-504-505-506-507-508-509-510-511-512-513-514-515-516-517-518-519-520-521-522-523-524-525-526-527-528-529-530-531-532-533-534-535-536-537-538-539-540-541-542-543-544-545-546-547-548-549-550-551-552-553-554-555-556-557-558-559-560-561-562-563-564-565-566-567-568-569-570-571-572-573-574-575-576-577-578-579-580-581-582-583-584-585-586-587-588-589-590-591-592-593-594-595-596-597-598-599-600-601-602-603-604-605-606-607-608-609-610-611-612-613-614-615-616-617-618-619-620-621-622-623-624-625-626-627-628-629-630-631-632-633-634-635-636-637-638-639-640-641-642-643-644-645-646-647-648-649-650-651-652-653-654-655-656-657-658-659-660-661-662-663-664-665-666-667-668-669-670-671-672-673-674-675-676-677-678-679-680-681-682-683-684-685-686-687-688-689-690-691-692-693-694-695-696-697-698-699-700-701-702-703-704-705-706-707-708-709-710-711-712-713-714-715-716-717-718-719-720-721-722-723-724-725-726-727-728-729-730-731-732-733-734-735-736-737-738-739-740-741-742-743-744-745-746-747-748-749-750-751-752-753-754-755-756-757-758-759-760-761-762-763-764-765-766-767-768-769-770-771-772-773-774-775-776-777-778-779-780-781-782-783-784-785-786-787-788-789-790-791-792-793-794-795-796-797-798-799-800-801-802-803-804-805-806-807-808-809-810-811-812-813-814-815-816-817-818-819-820-821-822-823-824-825-826-827-828-829-830-831-832-833-834-835-836-837-838-839-840-841-842-843-844-845-846-847-848-849-850-851-852-853-854-855-856-857-858-859-860-861-862-863-864-865-866-867-868-869-870-871-872-873-874-875-876-877-878-879-880-881-882-883-884-885-886-887-888-889-890-891-892-893-894-895-896-897-898-899-900-901-902-903-904-905-906-907-908-909-910-911-912-913-914-915-916-917-918-919-920-921-922-923-924-925-926-927-928-929-930-931-932-933-934-935-936-937-938-939-940-941-942-943-944-945-946-947-948-949-950-951-952-953-954-955-956-957-958-959-960-961-962-963-964-965-966-967-968-969-970-971-972-973-974-975-976-977-978-979-980-981-982-983-984-985-986-987-988-989-990-991-992-993-994-995-996-997-998-999-1000-1001-1002-1003-1004-1005-1006-1007-1008-1009-1010-1011-1012-1013-1014-1015-1016-1017-1018-1019-1020-1021-1022-1023-1024-1025-1026-1027-1028-1029-1030-1031-1032-1033-1034-1035-1036-1037-1038-1039-1040-1041-1042-1043-1044-1045-104

騎馬之書

あ馬の定日へせしめ先にも清浄無染
して去日右方と撰ひてあけんとし
て馬のくみとてしる之を馬を束
あけし軍神酒のくみとて瓶に酒を
てあけし酒をくみして大將のくみと
する九七のくみとてくみしる馬を束

たのも先ふ勝果七たのも先ふ呂布
小切重二ツまきと云て大將の床机は
なびと掛てあ掛るひた有てあは
あはま一髪と後（白毛と云て正と床
机ふあてあ大將立て机みはとけあ
のまふあて九百半軍神二千八軍夫
小も回りの机子ととあて机は後
机子（加ふ）あはと大將の机はあ
一の重と人むはと云て二の重は机は

二の重は一も機に机ふあま

一の重と人なるはさう後一の重は誤る

二の重は一も其れに柳小春と一
と後列座して祝ふの言有し時
一家老婦侍大將因取軍奉行各
酒三有也

騎馬と次

水

金

水

張
翥

子健

生
子持
翥

道

道

道

具

具

具

主事

勸學司者

吉人

吉人

人

日人

中書省

張

人

日人

人

日人

中書省

張

人人

人人

大時

人人
人人
人人
人人
人人

道真
道真
道真

人人
人人
人人

一

人人人
人人人
人人人

日者金屋藏

世世為事
人人人
人人人

世世為事
人人人
人人人

張子敬

人人人

高之

人人人

子敬

道
道
道

道真

道真

道真

口者金聲

常人人人
日日日日

常人人人
日日日日

張

子

人

馬

子

人

子

壽考

道人

道人

一、海三、海何、海才、海好、海人、海力

とわく作をふと市に敷くすく
一隣りおわたりとてそぬまの
一隣りおをすひとてふなちきつた
はふふふとてふふふふ

右一卷古當家詩集

為世所不傳依聖賢之芳

今授古之平用而亦據他見

他書有回文古也

同政成

人

古

子

